

「多様な症状」を生じた患者の診療 — 本日の事例概要 —

資料 1 - 4

多様な神経症状を生じて慶応義塾大学病院小児科を受診し、症状が軽快した方のうち2名について、主治医から症状、経過、診療方針、転帰等について報告。

【2名の方の概要】

- HPVワクチン接種歴なし
- 発症から慶応義塾大学病院を受診するまでの期間: 11ヵ月～1年4ヵ月
(その間は近医受診など)
- 事例概要
 - A) 上下肢の伸展、意識障害を認め、当院受診まで神経内科、精神科へ入院していた。
 - B) 頭痛、吐気に加え、脱力感、歩行不能を認め、徐々に学校に行けなくなった。

診療方針: 患者・家族へのカウンセリングと患者への食事介助

- 患者、家族への十分な説明
- 家族への面接により患者の成育歴、気質を十分に聴取し、家族の患者に対する適切な支援を指導
- 症例A)は入院中の食事介助や定期面接を通じて、症例B)は外来面接を通じて信頼関係を構築し、過去の対人関係での辛かった思いを傾聴
- 過去の辛い思いを家族、治療者が受け止めていくことにより症状は軽快。
- 慶應大学病院初診から6～9ヶ月で症状はほぼ消失。現在社会復帰に向けて外来診療を継続中。